

宮崎県椎葉村の焼畑における栽培技術の 作物養分吸収・生理反応・生育による評価

近藤 友大 氏

(京都大学大学院農学研究科)

日時

2022年6月24日(金) 17:00～18:30

開催方法

対面(京都大学本部キャンパス
総合研究2号館4階 AA447会議室)
とオンライン(ZOOM)による
ハイブリッド開催です。

下記サイトより事前にお申し込みください。

<https://forms.gle/TGZo2hiveQmTLhCV8> (当日15:00締め切り)

要旨

九州山地北部に位置する宮崎県椎葉村は、かつて焼畑が最も重要な農業形態であった。現在でも極めて小規模ではあるが、伝統的な手法を用いた焼畑が継続している。椎葉村では標高や地質に応じた多様な手法で焼畑がおこなわれてきたが、現在おこなわれている焼畑は夏ヤボと呼ばれる。夏ヤボでは、8月上旬に火入れし1年目にソバ、2年目にヒエ・アワなどの雑穀、3年目以降にアズキ・ダイズ・ツルアズキなどのマメ科作物を栽培する。3-4年耕作した後30年程度休閑させる。そこには様々な伝統的といべき栽培技術が存在するが、それを科学的に評価したものは少ない。そこで発表者は2016-2022年に、火入れ方法、播種方法、栽培される作物、輪作の順番という栽培技術を作物の養分吸収・生理反応・生育などの観点から評価したので紹介する。

